

# 学びの創造

教育実践研究支援センターでは、秋田大学教育文化学部および大学院教育学研究科の様々な取り組みを、教育関係者に広く知っていただけるよう、センターニュース「学びの創造」を発刊してきました。今年度からはその範囲を拡大し、秋田県内の公立学校にも送付します。教育実習や実地研究など学生たちが頑張っている様子、大学院生や研修員として勉学に励む先生方の日々の取り組みを紹介することを通して、学校と大学を少しでも橋渡しできるよう、新たな学びを創造できるように取り組んでいきます。

## ★センター長より

当センターを中心に展開してきた2つの文部科学省特別経費プロジェクト「まなびの総合エリア」と「教員養成秋田モデル」が、この3月で一つの区切りをつけました。学部の先生方、さらに秋田県教育委員会、秋田市教育委員会からのご協力とご支援をいただいたおかげで、教育実習の改善をはじめ、学生と現職教員との共同学習、学校や児童館等でのボランティア体験学習などたくさんの成果をあげることができました。本当にありがとうございました。今年度は、これらのプロジェクトで得られた成果をさらに充実・発展させるために「教員養成機能の充実プロジェクト」として継続することとなりました。実践力のある質の高い教員の養成と教員就職率のさらなる向上をめざして努力する所存です。今後とも当センターへのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

秋田大学 教育文化学部 附属教育実践研究支援センター長 武田篤

## ★学校支援事業の概要と計画

平成22年度から「まなびの総合エリア」を組織し、教員の養成と研修の統合化に取り組んできましたが、平成25年度も大学教員派遣事業を実施し、学校や市町村等が抱える教育課題の解決に向け支援することにいたしました。今年度は、出前授業35校、支援員研修会8校、学校運営支援パートナー1校、研修推進アドバイザー25校、計69校から応募がありました。

	H22	H23	H24	H25予定
出前授業	29校	28校	13校	35校
支援員研修会	1校	11校	12校	8校
学校運営支援パートナー	—	12校	5校	1校
研修推進アドバイザー	19校	63校	32校	25校
計	49校	114校	62校	69校



### 大学院教育学研究科の募集

大学院教育学研究科は、先生方が直面している課題を対象化して深く考えたり、先進的な知識や技術を身につけたりすることを通して、教師としてより高度な能力を身につけることを支援します。新しい教員免許状の取得も可能です。

#### ■募集要項の配布と試験日程

##### □第Ⅰ期募集

出願期間：平成25年8月19日～30日

試験期日：平成25年9月27日（金）

##### □第Ⅱ期募集

出願期間：平成25年12月19日～26日

試験期日：平成26年1月25日（土）

問い合わせは、018-889-2512(大学院担当)まで

### オープンキャンパスへのお誘い

秋田大学では、大学のことをより身近に、より深く知っていただこうと、毎年オープンキャンパスを開催しています。今年は、7月と10月の2回行います。進学を希望している高校生だけでなく、保護者の方も参加できます。秋田大学は、来年度に学部の再編を行うため、学部や課程、学科に変更があります。詳しい変更点や入試に関する説明会も行いますので、多くの方のご参加をお待ちしています。なお、事前申し込みが必要です。

#### ■オープンキャンパスの日程と問い合わせ

7月27日（土）10時00分～（受付9時開始）

10月19日（土）10時00分～

詳しくは <http://www.akita-u.ac.jp> をご覧ください

## ★たまご教師の奮闘記① 学校教育課程 教科教育実践選修 4年 石黒結花子

私は現在、秋田県の高等学校の教員を目指し、夏に行われる教員採用試験に向けて対策を頑張っています。その中でも特に、毎週月曜日に開かれている「スタージュ」では、教育文化学部の多くの先生方のご指導のもと、これまで筆記試験対策や面接・討論試験対策を数多く積み重ねてきました。自分一人での勉強は時につらくなり、自分の勉強方法は正しいのかと不安になってしまうことが少なくありません。しかし、このスタージュでは同じ自治体・校種を目指すメンバーで情報交換をし合ったり、先生方からの確かな助言をいただいたりしながらじっくりと勉強できるため、自分のつらさや不安を解消して、さらに高い意欲をもって対策に取り組むことができます。また、春には先生方のご協力で「スタージュ・スプリングキャンプ」を開催していただきました。一泊二日の日程で、模擬授業や個人面接の練習等を友人たちとじっくり取り組むことができ、楽しみながら、実力を身につけられたと感じています。

加えて、秋田市内の小学校へ学校ボランティアとして訪問する「教育実地研究」にも参加しています。この教育実地研究は、子どもたちや現職の先生方とより近い位置で接することで現場の雰囲気を掴むことができ、将来教員になった時のことを想像させてくれる良い機会だと思っています。小学校の教員以外を志望していても、中学校・高等学校への系統性を考えるきっかけを与えてくれる場でもあるため、私は教育実地研究の日を大変楽しみにしています。

教員採用試験まで残りわずかとなりましたが、支えてくださる先生方、励ましてくれる友人・家族への感謝の気持ちをもって採用を目指し、さらなる努力を続けていきたいと思っています。

## ★大学院での学びと生活① 大学院教育学研究科 1年 渡辺智一（大館市立城西小学校）

### 「視野は広く、足取りは軽く」

早いもので、大学院生活も三カ月が過ぎた。

「学生生活は楽しいでしょ。」「大館から通ってるんですか。大変ですね。」

約二十年ぶりの学生生活に対する周囲の反応である。確かに往復三時間の電車通勤は楽ではない。しかし、その時間は今では貴重な読書タイムとなっている。

春先は教授や大学院生の会話の専門用語を理解することが難しかった。国内外の文学作品についてもあまりに知識がなさ過ぎた。教養といわれるものの不足を埋めるには読書しかない。紹介された冊子、文献を精一杯の早さで読む。すると、少しずつ自分の視野が広がっていくことを実感できる。

国語の授業は何のために。毎日の授業がこの問いの答えになっている。日本語の持つ歴史性や長所短所、国語科指導の先行実践理解や授業の組み立て方などなど。これまでの漠然とした疑問が一つ一つ解決されていく。だから「勉強って楽しい。」純粋にそう思える。

出会いもまた楽しい。まずは先生方。その知識に裏付けられた言動には説得力がありユーモアもある。そして皆さんフットワークが軽い。好奇心に正直で真摯である。だから目の輝きが違う。同窓生との話も刺激的だ。みんな課題意識があり、今自分がすべきことをよく考えて行動している。ボランティアへも積極的であり、被災地支援の募集はすぐに定員でいっぱいになる。たわいもない話や将来に関することまで、雑談を通して気付かされることも多い。

国語をもっと生活に役立つものとして、分かりやすく教えたい。これが大学院研修を志望した理由である。人間は言語によって人とつながり、人生を豊かにしていると今は強く思う。言葉を学ぶ楽しさを、授業を通して伝えられるよう、貴重な機会を得たことに感謝しながら今後も日々の研究に励みたいと思う。

